

岡山大学

薬学部

OKAYAMA UNIVERSITY
FACULTY OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

- 創薬科学科
- 薬学科



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



2027年度 学部案内

健康と病気を科学して、「薬」を知ろう

当学部は薬学科(6年制)と創薬科学科(4年制)からなっております。どちらの学科においても「薬」を中心に学ぶこととなります。「薬」を知る／創る／扱うためには、病気(疾患)を知るだけでなく、健康を知ること重要です。また、薬学部は「薬」だけでなく、体内に取り込まれるあらゆる化学物質(食品成分、食品添加物、環境化学物質など)の影響について学びます。健康・病態・環境などの諸問題を解決するために、広く、深く、様々な角度からサイエンス(研究)する力(こと)が求められています。今では、GAFAMを含むビッグテックと呼ばれる大企業が人工知能(AI)によって新薬を開発しようと力を注いでいます。時代とともに「薬」の開発方法も大きく変わりつつあります。当学部では、様々なデータを活かした学問(研究)を展開するために、データサイエンスを専門的に扱う研究室を最近開設し、多様な研究者を育てる環境を整えています。さらには、臨床研究促進のために病院薬剤部との連携を深めつつ、行政や薬局との関わりも進めており、薬剤師が活躍する全ての現場での共同研究体制を積極的に促しています。以上のような取り組みを進めていますので、興味がある方は是非、オープンキャンパスや公開講座にお越しください。生命科学に関わる「薬」学部を志した多くの学生の皆様を歓迎します!

詳しくはこちら



薬学部長 上原 孝

アドミッション・ポリシー

薬学部

詳しくはこちら



教育内容・特色

薬学とは、以下の各要素からなる、複合的な学問分野です。

- 1) 解析: 生命現象、疾病原因の分子基盤を解き明かす。
- 2) 創出: 機能を制御できる物質を創出する。
- 3) 活用: 開発・発見された物質の活用法を最適化し、さらには新たな活用の方策を創案する。

岡山大学薬学部では、これらの活動を担う人材を育成するために、関連する基礎、応用の科学、技術を修得させ、また自ら新しい知を創生するための、実践力、探求力、コミュニケーション力、専門力、教養力を練磨します。

さらに、社会的使命・倫理観を持ってその成果を正しく活用し、持続的・恒久的な国際社会の発展に寄与する人材を育成します。

このため、薬学部では所属学生に対し、解析・創出・活用に共通の教育基盤を与え、薬学科では特にヒトに対する物質の「活用」を担うための専門的知識を身につけた人材(薬剤師)を、創薬科学科では、解析・創出・活用に係わる研究開発を担う人材を育成し、人々の健康の維持・増進に、持続的・恒久的に寄与することを目指します。

求める人材

薬学とは、化学、生物学、物理学などの基礎科学からバイオテクノロジーなどの応用科学までも含んだ生命科学であり、人間の生命・生活にとって有益な「薬」を開発、製造、適正使用するための科学技術の基本となる学問領域です。岡山大学薬学部では、薬学を学ぶ人材として、以下のような人を求めます。

1. 優れた倫理観を有し、研究心・探求心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術および他者と共感・協働できるコミュニケーション力を身に着けた薬剤師あるいは創薬研究者として活躍したいと考えている人
2. 大学院博士課程・博士後期課程に進学し、将来の薬学あるいは創薬科学関連分野を担う研究者や教育者を目指したいと考えている人
3. 専門分野に関連する科目への高い理解度と応用力が期待できる人
4. 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力と教養を有する人

創薬科学科

教育内容・特色

創薬科学科では、解析・創出・活用の全てにわたり、ヒトを含む生命や、その変化(疾病・病態)との関連を視野に入れた研究開発を遂行するための専門的知識技能を教育します。さらに、これらを基にした新たな知の創生を行うために、**実践力、探求力、コミュニケーション力、専門力、教養力**を練磨し、もって国際社会における創薬・医療分野の持続的・恒久的な発展に貢献する人材を育成します。

求める人材

創薬科学科では、将来、薬に関わる研究・開発を担う人を育成するため、更に以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 創薬・医療に関わる人にふさわしい優れた倫理観を有し、研究心・探求心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術および他者と共感・協働できるコミュニケーション力を身につけて、創薬科学関連分野で活躍したいと考えている人
2. 大学院博士後期課程に進学し、将来の創薬科学を担う研究者や教育者として、国の内外で活躍したいと考えている人

薬学科

教育内容・特色

薬学科では、ヒトの健康を目的として物質を活用する。すなわち薬剤師としての業務を遂行するための専門的知識・技能・態度を教育します。さらに、これらを基にした解析・創出をも含む新たな知の創生を行うために、**実践力、探求力、コミュニケーション力、専門力、教養力**を練磨し、もって国際社会における医療・衛生分野の持続的・恒久的な発展に貢献する人材を育成します。

求める人材

薬学科では、将来、薬の専門家として先進医療を推進する人を育成するため、更に以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 薬剤師にふさわしい優れた倫理観を有し、研究心・探求心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術および他者と共感・協働できるコミュニケーション力を身につけた薬剤師として活躍したいと考えている人
2. 大学院博士課程に進学し、将来の薬学関連分野を担う研究者や教育者を目指したいと考えている人

学科紹介 Course introduction

詳しくはこちら



創薬科学科

学部・4年制コース

研究者を目指す

生命の仕組みと病気の原因を解明し、「くすり」を創る研究者を育成するコースです。

特に、生命科学とその研究手法について、基礎から先端まで、深くかつ広範囲に学び、研究者としての基盤を作ることに重点が置かれています。そのため、化学・生物・物理に加えて「くすり」に関係する様々な選択科目および実験・実習(研究)に多くの時間が充てられ、他学部にはない特色あるカリキュラムが組まれています。創薬科学科(4年制コース)では、3年次1学期からの実習に引き続き、3年次4学期に研究室配属が行われ、4年次に卒業研究実習を行います。学部卒業後は、研究の技術や知識の専門性を高めるため、大学院博士前期課程(2年)さらに博士後期課程(3年)へ進学することができます。

それぞれの課程を修了することにより、修士、博士の学位を取得することができます。学位取得後は、幅広い知識を基盤に、高度な専門性をもち研究能力に富む研究者として、また創薬開発に携わる企業人として、広く社会で活躍することが期待されます。国内・国外を問わず、製薬企業・大学・研究所などの研究開発職、あるいは生命科学にかかわる職業への道が開かれます。

創薬科学科

詳しくはこちら



薬学科

学部・6年制コース

薬剤師資格を取得し医療への貢献を目指す

薬剤師資格を活かして医療に貢献する、リサーチマインドを持つ人材を育成するコースです。

さらに、薬剤師の資格を取得した上で大学院博士課程(4年)へ進学し、「博士」の学位を有する研究者、大学教員などを目指すことも可能です。医療の一翼を担う「薬剤師」には、薬学の知識を人々の健康維持・増進のために、最大限に活用するという社会的使命があります。

薬学科(6年制コース)では、薬剤師としての専門的な知識と技能および態度を修得するため、4年次に基本技能や患者・医療職種とのコミュニケーションなどを学ぶ臨床準備教育を受講します。その後、5年次に薬局(11週)および病院(11週)で体験型実習を行います。一方で、このような実習がない時期には、研究室で卒業研究実習を行います。

領域ごとに高度に細分化された現代医療では、専門領域における知識、技能を備えた薬剤師である認定・専門薬剤師の必要性が高まっています。こうした社会的ニーズに応えるために、岡山大学薬学部では専門領域の異なる薬剤師が主宰する臨床系の研究室も充実しています。さらに岡山大学病院薬剤部や各診療科とも教育・研究で密接に連携しており、指導的立場に立つ先導的な薬剤師や臨床現場で活躍できる薬学研究者を育成しています。

薬学科

詳しくはこちら



授業・実習

創薬科学科では、薬学に関する高度な倫理観に支えられた、豊富な知識、技術を持つ薬学研究者を育成する。薬学科では、薬剤師にふさわしい優れた倫理観を有し、研究心・探究心を持ち続ける。

薬学研究入門



いずれの学科でも、1年次から研究室で実験を行い、研究経験を積むことができます。

早期体験学習



入学直後に、薬剤師の役割を学生自身が考える機会を設けることで、学びの動機を明確にします。

実習



岡山大学病院で、高度な医療に触れ、知識・技能・態度を磨く。

カリキュラムチャート Curriculum chart

詳しくはこちら



薬学部				大学院(修士)		大学院(博士)			
1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年	3年	
全学共通科目・英語科目		英語で学ぶ 薬学研究	実験・実習	卒業研究 実習	医歯薬学 総合研究科 博士前期課程		医歯薬学 総合研究科 博士後期課程		修士学位審査
専門教育科目								修士学位審査	

創薬科学科

専門教育科目

- 1年 物理化学A～B 生化学A～B 有機化学A～B 基礎物理学 基礎生物学 基礎化学 分析科学A～B 生物有機化学 薬学研究入門 等
- 2年 物理化学C～D 無機・放射医薬品学 有機化学C 天然物化学 漢方薬学概論A～B 生化学C～D 分子生物学A～B 微生物学 レギュラトリーサイエンス 等
- 3年 有機合成反応論 分子構造解析学 免疫学A～B 生物統計学 衛生薬学C～F 薬理学B～D 等

詳しくはこちら



薬学部						大学院(博士)				
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	
全学共通科目・英語科目		英語で学ぶ 薬学研究	実験・実習	共用試験	卒業研究実習	薬剤師国家試験	医歯薬学 総合研究科 博士課程			修士学位審査
専門教育科目										修士学位審査

薬学科

専門教育科目

- 1年 物理化学A～B 生化学A～B 有機化学A～B 基礎物理学 基礎生物学 基礎化学 生薬学 人体解剖学 薬学研究入門 等
- 2年 物理化学C～D 無機・放射医薬品学 有機化学C 天然物化学 漢方薬学概論A～B 生化学C～D 微生物学 衛生薬学A～B 等
- 3年 分子構造解析学 医薬化学 等
- 4年 臨床医薬品治療学A～B 薬事法規・薬事行政A～B コミュニティファーマシー 等

育し、教育者・研究者として活躍できる人材を輩出するように配慮したカリキュラムを立てています。
、高度な知識と最先端の技術を有する人材を輩出するように配慮したカリキュラムを立てています。

カリキュラムの
詳細はこちら



実習



先進医療を担う薬剤師業務に
習熟します。

卒業研究



いずれの学科でも、3年次後半から研究室に配属し、卒業
に向けて研究活動を行います。

学外合宿研修



主として3年生を対象として、製薬企業の研究所、工場、
公的研究機関の見学、研修を行っています。

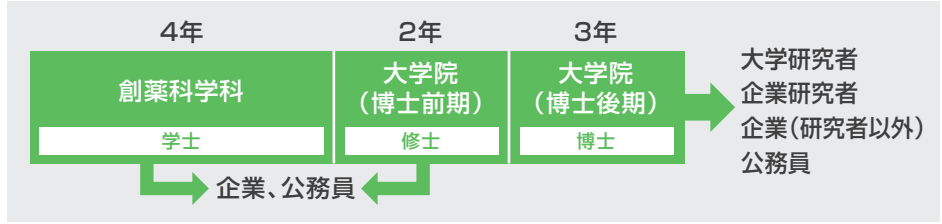
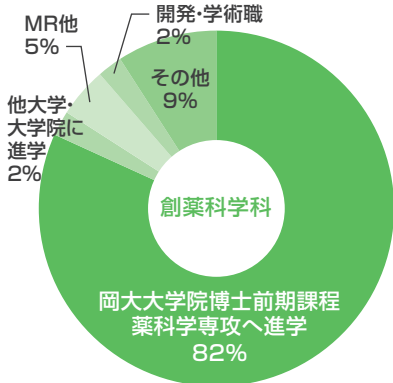
進路・就職先 Career / Employment

詳しくはこちら



創薬科学科卒業生は、そのほとんどが本学大学院博士前期課程(修士)へ進学し、修了後は、開発・研究・学術等の職種で企業へ就職しています。

学部学生の進学・就職状況

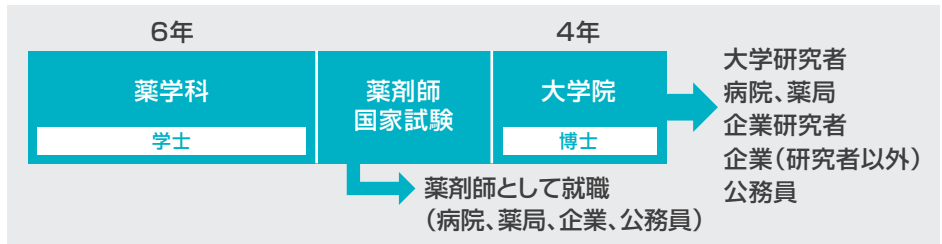
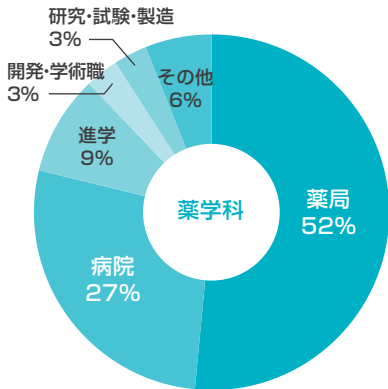


主な就職先の例 (業種別五十音順)

味の素、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、大塚製薬、小野薬品工業、キッセイ薬品、杏林製薬、協和キリン、グラクソ・スミスクライン、国立研究開発法人理化学研究所、塩野義製薬、第一三共、大正製薬、大鵬薬品工業、タカラバイオ、武田薬品工業、田辺三菱製薬、中外製薬、テルモ、バイエル薬品、久光製薬、扶桑薬品工業、医薬品医療機器総合機構(PMDA)、気象庁 大阪管区気象台

薬学科卒業生は、薬剤師として病院や保険薬局へ就職するケースが多く、次いで企業、公務員等が主な就職先となります。

学部学生の進学・就職状況



主な就職先の例 (業種別五十音順)

愛媛大学附属病院、岡山済生会総合病院、岡山赤十字病院、岡山大学病院、倉敷成人病センター、倉敷中央病院、高知医療センター、聖マリアンナ医科大学病院、鳥取大学医学部附属病院薬剤部、アインホールディングス、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、塩野義製薬、住友化学、総合メディカル、第一三共、大鵬薬品工業、ツムラ、東和薬品、日本新薬、日本調剤、阪大微生物病研究会、医薬品医療機器総合機構(PMDA)、厚生労働省、特許庁

詳しくはこちら



キャンパスライフ

INTERVIEW 01

なりたい自分になるために

薬学科 4年 宮地 凜



私は薬剤師として医療現場で患者さんを支えることと、薬学研究者として新たな知見を創出し医療の発展に貢献することの両方に魅力を感じ、岡山大学薬学部に入學しました。学部4年生になり、これまで学んだ基礎知識をもとに、より専門的な知識を学び始めたとともに、研究室活動も始まり、毎日新たな学びの連続です。4年次後期から5年次にかけては実務実習も始まるため、医療現場を実際に体験することで、自身の将来像をより具体的に考える時期が近づいていると感じています。今でも将来に対する不安や迷いはありますが、薬学部で学べる全てのことを大切に、どの進路を選んでも自信をもって薬学に携わることができる人材を目指したいと考えています。

INTERVIEW 02

環境化学物質の作用を読み解く

大学院博士後期課程2年 伊藤 嘉崇



私は薬学部の講義を通して、医薬品を含む化学物質を安全・適切に使用するには、その毒性や健康リスクの把握が重要であることを学びました。一方、環境中には農薬など、人への影響が十分に明らかでない化学物質も存在します。この現状に着目し、大学院では、環境化学物質への曝露が引き起こす細胞応答を遺伝子レベルで解析し、その仕組みを解明することを目指して研究しています。研究は、仮説を立てて実験し、結果に応じて仮説を再考することの繰り返しです。試行錯誤の毎日ですが、様々な研究者と議論を重ね、未知の生命現象に迫っていく過程に、研究の楽しさを感じています。将来は、研究で磨いた仮説検証力を活かし、人の健康課題の解決に貢献したいです。

卒業生からのメッセージ

詳しくはこちら



研究の面白さに惹かれて

日本新薬株式会社 製薬化学研究部 高村 祐太 (令和5年卒)



私は現在、日本新薬株式会社の製薬化学研究部に所属し、医薬品原薬の製造プロセス開発に携わっています。研究室レベルで見出された合成ルートを、より効率的で安全かつ安定した製造方法へと発展させ、医薬品を確実に患者さんのもとへ届けるための重要な役割を担っています。研究成果を実際の医薬品製造へとつなげていく責任ある業務に、大きなやりがいを感じています。

私が岡山大学薬学部に進学した理由は、「薬を創るって格好良くない?」という漠然とした憧れのようなものでした。そんな思いを持って入学したものの、学部時代は部活動に没頭するあまり、決して成績の良い学生とは言えませんでした。しかし研究室に配属され研究に取り組む中で、「課題を立て、それをどのように証明して解決するか」を考える研究の過程に魅力を感じるようになりました。すなわち、証明の仕方は人それぞれであり、そこにオリジナリティが生まれることが研究の面白さであり難しさだと感じています。また、そのオリジナリティは、課題へのアプローチの仕方や実験の進め方など、経験を通じて研究に対する引き出しを増やしていくことで育まれていくものだと感じています。私は、学位研究として有機合成から細胞・動物実験まで幅広い研究を経験することができたことに加えて、多くの分野の先生方と議論する機会に恵まれました。こうした経験は、研究職に就いた私にとって財産であり、研究活動の基盤となっています。研究者としてはまだまだ未熟者ですが、岡山大学で培った土台から、さらにオリジナリティを発展させられる研究者になることが、今の私の目標です。

薬学部での学びは幅広く、私のように入学時点で明確な目標が定まっていなくても、日々の講義や研究活動の中で将来の方向性が見えてくると思います。皆さんが岡山大学薬学部で多くの経験を積み、「面白い」と思える進路を見つけていかれることを願っています。

医療に新たな価値を生み出せる薬剤師を目指して

岡山大学病院 薬剤部 河井 花菜子 (令和3年卒)



私は、岡山大学病院で薬剤師として勤務しています。薬剤師という立場から、目の前の患者さんにとって最適な薬物治療を提供できるよう、医師や看護師など多職種と連携しながら日々の業務に取り組んでいます。特にがん薬物療法に関わる患者さんや、栄養管理が必要な患者さんに対して、処方内容の確認や副作用の評価、服薬指導に加え、栄養剤の選択や投与方法の提案などにも関わっています。チーム医療の一員として、治療方針の検討に参画できる点に責任とやりがいを感じています。

学生時代には、保険薬局もしくは病院のいずれを志望するかで悩んだ時期もありました。しかし、病院実務実習を通じて、病院薬剤師が大学で学んだ薬物動態学などの専門的知識を活かしながら処方内容を評価し、他職種や患者さんからの質問に答え、頼りにされている姿を目の当たりにしました。さらに、日々の臨床で得られた疑問を研究へと発展させている点にも大きな魅力を感じました。これらの経験から、単に知識を提供するだけでなく、状況に応じて考え、判断し、医療に新たな価値を生み出せる病院薬剤師になりたいと考えるようになり、現在に至っています。

現在は大学病院という恵まれた環境の中で、先輩方のサポートを受けながら、日々の臨床に加えて資格取得や研究にも取り組んでいます。薬剤師という資格は、医療現場にとどまらず、多様な分野で活躍できる可能性があります。さらに、自身のライフスタイルに合わせて働き方を選択できる点も大きな魅力の一つです。進路に迷うこともあると思いますが、視野を広く持ち、自分の可能性を大切にしてほしいと思います。

資格・免許

詳しくはこちら



第111回(令和8年)薬剤師国家試験合格率(新卒) 90.9%

正規の課程を修めて卒業した者に与えられる受験資格

- 薬剤師国家試験受験資格※
- 甲種危険物取扱者試験受験資格
- 労働衛生コンサルタント受験資格※(実務経験が必要)

正規の課程を修めた者が取得に有利な資格

- 医薬品登録販売者
- 計量士
- 作業環境測定士
- 放射線取扱主任者
- 衛生管理者
- 栄養情報担当者認定資格

※詳しくは厚生労働省ホームページでご確認ください。https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shikaku_shiken/index.html

正規の課程を修めて卒業した者に与えられる資格および免許等

- 毒物劇物取扱責任者
- 環境衛生指導員
- 環境衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 食品衛生監視員
- 食品衛生責任者
- 水道技術管理者資格
- 公害防止管理者資格認定講習受講資格(実務経験が必要)
- 建築物環境衛生管理技術者資格認定講習受講資格(実務経験が必要)
- 廃棄物処理施設技術資格者
- バイオ技術者認定試験(民間資格)
- 健康食品管理士(民間資格)
- 医療環境管理士(民間資格)
- 医療福祉環境アドバイザー(民間資格)
- 薬剤情報担当者(民間資格)

研究紹介

Research highlights

研究室一覧

創薬有機化学/精密有機合成化学/天然物化学/合成薬品開発学/生体機能分析学/生体膜生理化学/核酸創薬化学/再生治療薬学/生物薬剤学/分子生物学/医薬品信頼性科学/生物物理化学/神経生物物理学/統合生化学/毒性学/疾患薬理制御科学/薬効解析学/臨床薬物動態学/国際感染症制御学/薬学データサイエンス/炎症薬物学/臨床基礎統合薬学/生体機能情報学

詳しくはこちら



REPORT 01

薬学部の強みを生かして再生治療に貢献する

教授 堀口 道子

これまでは治療が困難であった難治性疾患に対して、失われた組織や臓器を再生させる『再生治療』が注目されています。しかし、再生治療を実現するiPS細胞や体性幹細胞は品質が不安定かつ高価なため、再生治療が広く普及するための大きな課題となっています。そのため、品質が安定していて、効果が高く、しかも安価な幹細胞製剤を開発することが急がれています。私たちの研究室では、幹細胞が安定して高い能力を保つための仕組みを明らかにし、新しい幹細胞製剤の開発に取り組んでいます。これからも、病気の根本にアプローチし、薬学の技術を再生治療の分野に取り入れ、治療法のない病気を1つでも多く治療できるように、研究室一丸となって取り組んで参ります。

再生治療薬学分野



新しい細胞製剤の開発を通じて
難治性疾患を克服



REPORT 02

モデルに基づく個別化投与設計と薬剤師主導型臨床試験で薬剤師の職能向上へ

教授 山本 和宏

薬の体内での挙動(薬物動態)を解析し患者個別に最適化された投与設計を行う業務が治療薬物モニタリング(TDM)です。妊婦、授乳婦、新生児、高度臓器機能低下患者や新規化合物は、患者データが蓄積されず薬物動態の予測が難しいため、投与設計手法が十分に確立していません。当研究室では、基礎実験データや体内の生理的データを理論式として結びつける生理学的薬物動態モデルを用いて個別化投与設計の手法を確立する研究を進めています。個別患者と同様のプロフィールを有する仮想人体(Virtual twin)を構築し、個別化投与設計を検討するとともに、データベースを用いてその妥当性を予備検証しています。さらに、薬学部の研究で得た様々な知見を薬剤師主導型の臨床試験で検証するなど、研究成果の社会実装に向けたトランスレーショナルリサーチを実践しています。

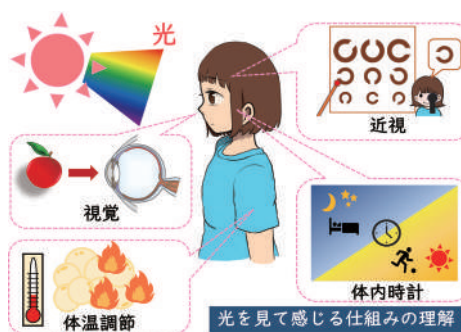


REPORT 03

光を見る・感じるしくみと疾患治療への展開

講師 小島 慧一

私たちはなぜ光を見ることができるのでしょうか?そのカギを握るのが、ロドプシンと呼ばれる光を受容するタンパク質です。目で光を受け取ることで視覚が生まれますが、ロドプシンは脳や皮膚、内臓にも存在し、体内時計や体温調節、さらには近視などに関与する可能性が示されています。つまり、ヒトは光を「見る」だけでなく「感じる」ことで、体の働きを調節しているのです。私たちはこの仕組みを生物学や物理化学の視点から解き明かし、さらに光で細胞の働きをコントロールすることで、病気の治療や予防につながる新しい方法の開発を目指しています。光と生命の関係を知ることで、より健康に暮らすための生活のヒントが得られると期待しています。



アクセス



●JR「岡山」駅よりバスを利用する場合

- ・JR岡山駅運動公園口(西口)バスターミナル22番のりばから岡電バス【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車、「岡大入口」又は「岡大西門」で下車(バス所要時間約10分)
- ・JR岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル7番のりばから岡電バス【16】系統「津高台・半田山ハイツ」行き、【26】系統「国立病院」行き、【36】系統「辛香口」行き、【86】系統「免許センター」行きのいずれかに乗車、「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分(バス所要時間約10分)

●JR「岡山」駅より電車を利用する場合

- ・JR津山線「法界院駅」で下車、徒歩約15分

薬学部を知るイベント

詳しくは岡山大学HPおよび岡山大学薬学部HPをご覧ください。

オープンキャンパス

2026年8月8日(土)開催予定

内容は概要説明、キャンパスツアー(入試相談コーナー有)、在校生相談コーナー等。
WEBオープンキャンパスも開催します。詳細はホームページ等でご確認ください。



公開講座

薬学研究の最前線に関する講義を年2回実施し、公開しています。

講師派遣

高校からの依頼に応じ実施しています(オンライン対応も可能)。

薬用植物園一般公開

当園は原則一般非公開ですが、イベントに合わせて公開を行っています。

学部訪問

授業見学・施設見学なども大歓迎です。お問合せください。



入試概要

詳しくはこちら



2027年度入学試験(2026年度実施)での区分ごとの募集人員は下記のとおりです。

募集人員

創薬科学科(4年制)

一般選抜	前期日程26人
総合型選抜	6人
国際バカロレア選抜	3人

薬学科(6年制)

一般選抜	前期日程28人
総合型選抜	9人
国際バカロレア選抜	1人

入学定員は「グローバル・ディスカバリー・プログラム」の募集人員2人、私費外国人留学生特別選抜5人を含む80人です。

入試方法

一般選抜

前期日程を実施します。

共通テストと個別学力試験および面接(薬学科のみ)の成績で、評価・判定します。

総合型選抜

小論文、面接(口述試験を含む)、および共通テストの成績で、評価・判定します。

出願要件:

- 1) 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)を卒業した人、および2027年3月までに卒業見込みの人。
- 2) 岡山大学薬学部での勉学を強く志望し、最終選抜に合格した場合には必ず入学することを確約できる人。



岡山大学 薬学部

お問合せ窓口:岡山大学薬学部広報委員会 Tel. 086-251-7923(ダイヤルイン) 教務学生担当 Fax. 086-251-7926

編集:岡山大学薬学部広報委員会

<https://www.pharm.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学薬学部



X @OkayamaU_Pharm

